

【はじめに】

患者の血液体液で汚染された物を扱う際は、標準予防策として手袋や防水性エプロンの他、マスクやゴーグルなど个人防护具（以下 PPE とする）着用が推奨されている。近年、医療業界では眼等の粘膜からの感染が実際に報告されている。当手術室では、器械出し看護師のゴーグル着用は定着している。しかし外回り看護師はガーゼカウント時など、血液曝露する可能性があるにも関わらず、PPE 着用をしていない。光武¹⁾は「PPE を適正に選択・着用また廃棄することによって、職員や患者を曝露・感染から守り、また病原微生物の伝播を防ぐ」と述べている。そこで今回は外回り業務時のゴーグル・エプロンの血液体液曝露状況の実態調査を行ったため報告する。

【目的】

当院での外回り看護師の血液体液の飛散状況について調査

【方法】

- 1、対象：A 病院で行われた全症例（眼科手術・前立腺生検を除く）53 件、当院手術室スタッフ 15 名
- 2、調査期間：平成 30 年 7 月 12 日～平成 30 年 12 月 17 日
- 3、研究方法 ①研究デザイン：量的研究
②方法：目視とルミノール染色による血液体液飛散状況調査、アンケート調査

【結果】

1. 現状把握 取り組み前の現状把握を行う為アンケートを作成し実施。アンケート結果よりゴーグルを「あまり着用していない」が 40%、「未着用」が 53%であった。エプロンでは「時々着用できていた」が 33%、「あまり着用していない」が 40%、「未着用」が 27%であった。
2. 実施 まず、いつでも PPE 着用できるように各部屋に PPE 専用のカートを設置した。次に、外回り看護師の血液体液曝露の感染リスクに対する勉強会を開催した。外回り看護師に業務を行ってもらった時に PPE（ゴーグルとエプロン）を着用してもらった。症例数 53 件中ゴーグルは目視、ルミノール染色反応は共になかった。エプロンは目視による汚染が 3.8%で、ルミノールによる血液反応が 9.4%だった。内訳としては外科 2 件、整形外科 2 件、血管外科 1 件であった。ルミノール染色反応を認めた症例の出血量は 14ml～81ml で平均 52.2ml だった。調査後、スタッフルミノール染色反応の結果を報告し、再度、血液体液曝露の感染リスクに対しての啓発を行った。
3. 取り組み後の実態調査 取り組み後のアンケート結果より、ゴーグルを「時々着用」が 57%、「毎回着用」が 14%と着用率が上がった。エプロンでは「常に着用」が 21%、「時々着用」が 71%だった。

【考察】

現状把握でのアンケートより、外回り看護師の PPE 着用率が低かった理由として、血液体液曝露の危険性の認識はあるが、PPE 着用の意識が低く、習慣づいていなかったことが考えられた。そこで、个人防护具の配置を整え、ルミノール染色反応の結果をフィードバックし、感染リスクに対する啓発を行った事は取り組み後の PPE 着用率の上昇につながったのではないかと考える。アンケートでは出血量が少量であれば PPE 着用しなくてもよいのではという意見があった。しかし、本研究では出血量と飛散状況に関係性がなく、全症例において確実な PPE 着用が必要である。今後、確実な PPE 着用のために、定期的な啓発を行い、習慣化へとつなげる必要がある。また、着用するタイミングを基準化するなどの対策も必要であると考えられる。